



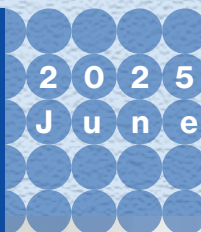
埼玉医科大学 総合医療センターニュース

SAITAMA MEDICAL CENTER NEWS

基本理念

安全で質の高い医療を提供し、
地域から信頼される医療機関を目指します。

NO. **71**



CONTENTS

ご紹介	はるかぜ……………緩和医療科 吉田 輝々・儀賀 理暁 … P-13
リウマチ・膠原病内科…………… 教授 天野 宏一 …… P-2	オンライン資格確認システムについてのご案内 …………… 医務課 …… P-14
肝胆隣外科…………… 教授 竹村 信行 …… P-4	連載
整形外科…………… 教授 乾 洋 …… P-6	RT JOURNAL (急性期脳梗塞の診断と治療について) …………… 中央放射線部 …… P-15
トピックス	お知らせ
特定看護師 始動します！ …………… ER 外来 山村 華菫 …… P-8	外来受診について/面会者へのお願い…………… P-16
当院は地域がん診療連携拠点病院です …………… がん診療支援室 藤野 優子 …… P-10	

病態に応じた治療選択でグルココルチコイド(GC)治療からの脱却を目指す・リウマチ・膠原病内科

教授 天野 宏一

○どんな病気があるのか？

- ・ **関節リウマチ (RA)** は、朝のこわばりや持続する関節の腫れ・痛みを感じ、関節滑膜の炎症によって不可逆的な骨破壊が生じる病気です。最近は関節エコーも利用しています。
- ・ **全身性エリテマトーデス (SLE)** は、多彩な自己抗体により中枢神経や皮膚、肺、腎臓、消化管など複数の臓器を障害する膠原病の代表的な病気の一つです。
- ・ **全身性強皮症** は、自己抗体産生を生じ皮膚、全身のさまざまな臓器が線維化する（硬くなる）病気です。血管障害による皮膚潰瘍、間質性肺炎、消化管障害などを伴う場合や肺高血圧症を伴う場合もあります。
- ・ **特発性炎症性筋疾患（多発性筋炎、皮膚筋炎など）** は、皮膚や筋肉に炎症がおこる病気です。筋肉痛や筋力低下の他、間質性肺炎を伴う場合や悪性腫瘍（がん）が併存している場合もあります。
- ・ **血管炎症候群** は、さまざまな臓器に影響がでうる病気で侵される血管の大きさと大まかに分類されます。巨細胞性動脈炎は高齢者、高安動脈炎は若年女性に多く大動脈のような大きな血管に炎症がおこる病気です。一方、抗好中球細胞質抗体（ANCA）が陽性となる顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症は、小さな血管の炎症で皮膚、肺、腎臓、末梢神経など多くの臓器が障害されうる病気です。
- ・ その他、**リウマチ性多発筋痛症、成人スチル病、シェーグレン症候群、ベーチェット病、サルコイドーシス、自己炎症性疾患（家族性地中海熱、TNF 受容体関連周期性症候群など）**なども当科で対応し、治療をしております。

○治療について

治療としてはグルココルチコイド（GC）（以前はステロイドと呼ばれていました）も使われますが、さまざまな副作用もあるため、適切な時期に十分な必要量の使用にとどめ、免疫抑制薬や生物学的製剤といった薬剤を併用することで可能な限り減量し、できれば中止を目指しています。またそれぞれの病気の病態に則した治療薬を選択することでGCの再増量を回避するよう努めています。

○どのような症状があるときに当科を受診するのが良いのか？

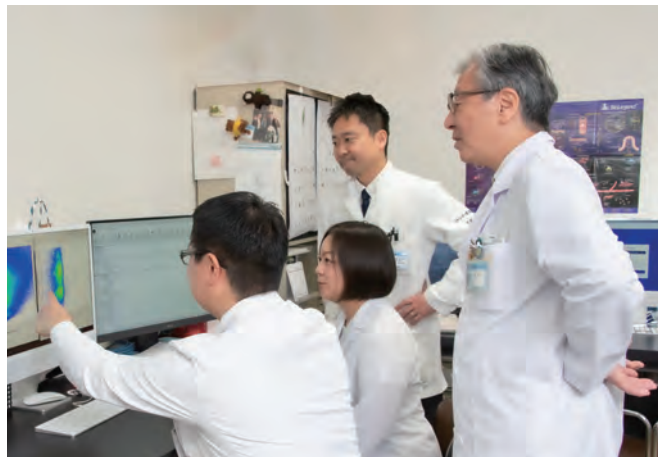
発熱が続くが診断がなかなかつかない場合、多関節の痛みがある場合、検査で自己抗体（抗核抗体やリウマトイド因子など）が検出された場合、様々な皮膚症状で皮膚科により内科的疾患が疑われた場合、慢性の乾性咳嗽（痰が少ない）、手足の筋力低下、乾燥症状（ドライアイ、ドライマウス）、顎下腺や涙腺の腫れ、血尿や蛋白尿が続く、などの症状がある場合はご受診をおすすめします。

○外来受診について

現在当科の初診外来診療は完全予約制で行っております。紹介元医療機関からFAXで送られたFAX診療予約申込書と診療情報提供書（紹介状）を受理後、当科外来より紹介元医療機関に電話で予約日時をお知らせしています。紹介状があっても外来へ直接のご来院は原則受け付けていません。当科での診察を希望される場合はかかりつけの医療機関へご相談ください。



関節エコーの様子



研究室の様子

○メンバー紹介

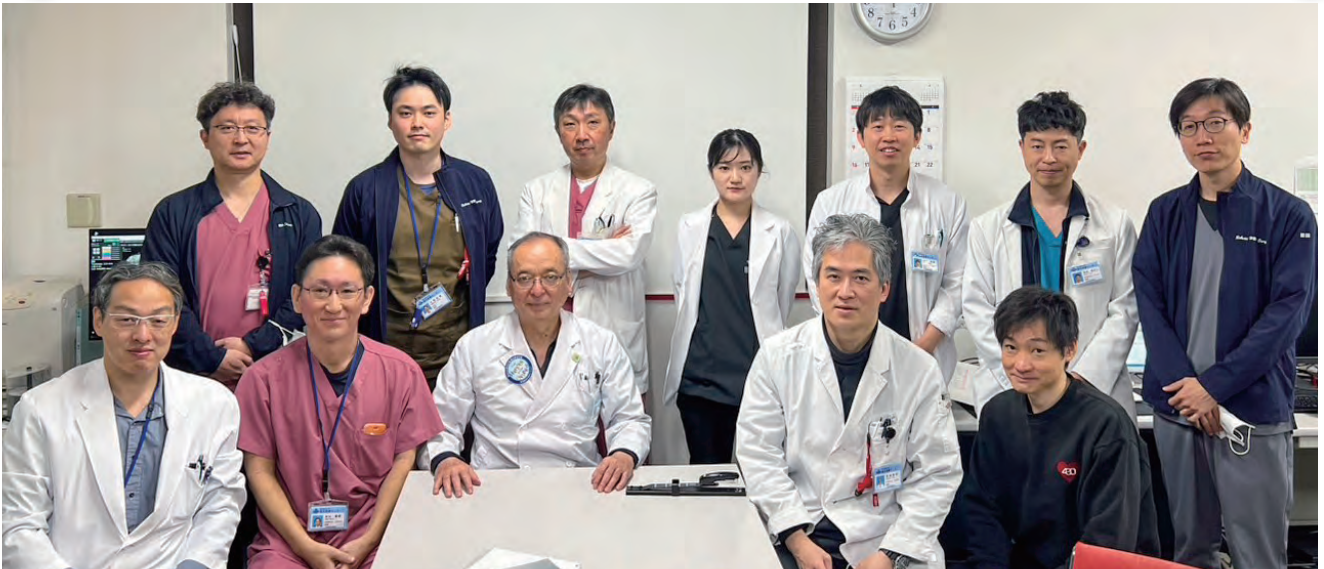
（常勤医）：天野宏一、花岡洋成、倉沢隆彦、酒井亮太、柴田明子、吉永正一、小坂泰司、佐々木優李、青木拓海、（非常勤医）長澤逸人、小川祥江、近藤恒夫

○研究について

将来の膠原病の原因究明や治療の開発につなげるため、当科に受療中のリウマチ・膠原病患者さんの同意の下でご提供頂いた臨床データや血液・組織生検サンプルを用いて、当科の研究にご協力いただいています。

肝胆膵外科

教授 竹村 信行



当科は肝胆膵（肝臓、胆管・胆嚢、膵臓と脾臓）疾患の手術、手術を目的とした抗癌剤治療、臓器移植（腎臓、膵臓、肝臓）を行っています。

最近の Topics

○低侵襲肝胆膵手術について

当院は日本有数のロボット支援下膵切除実施施設であり、消化器外科手術において最も難度の高いといわれるロボット支援下膵頭十二指腸切除を、現在までの累計で100例以上実施しています。いまだ血管合併切除が必要な進行癌には保険適応になっていませんが、安全に施行でき、その短期成績は開腹手術を凌駕することを発表してきました。これまで院内の手術支援ロボット台数が2台のみであり、当科で使用できるロボット手術件数にかなりの制約があったため、膵頭十二指腸切除を優先してロボット手術を施行してきましたが、2025年3月より院内の手術支援ロボットが3台に増え、割り当てられる手術件数が増えたため、これまで制限してきたロボット支援下による肝切除、膵体尾部切除件数も飛躍的に増え、さらなる低侵襲手術の充実を図ることが出来るようになりました。もちろん、ロボット支援下手術を行う手術適応は慎重に判断しますが、積極的に傷が小さく、入院期間の短い手術を進めていきます。

また、当科の特徴として胆嚢摘出手術においては、高度胆嚢炎症例を除きますが、腹腔鏡下に施行することはもちろん、傷を臍部の1か所のみで手術を完結させる単孔式腹腔鏡手術(SILS)を積極的に取り入れています。

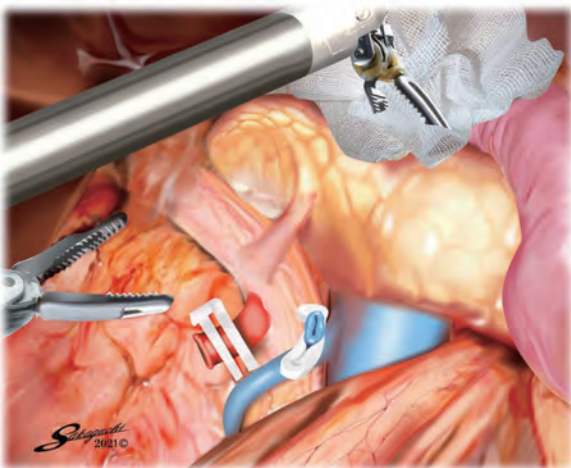
○高度進行肝胆膵癌の治療について

当科の特徴として、低侵襲手術を進める一方で、当科の扱う肝胆膵癌は悪性度が非常に高く、癌の切除が困難な状況で発見されることが少なくありません。当院は、膵癌に対しては最も強力とされるFOLFIRINOX（フォルフィリノックス）療法を積極的に適用してきました。残念ながら膵癌の悪性度は高く、すべての患者さんが治癒を得られるわけではありませんが、FOLFIRINOX療法施行後に腫瘍が縮小し、手術が行えた患者さんの予後は比較的良好です。また、これまで抗がん剤の効果が限定的であった胆道癌（胆管癌、胆嚢癌）や肝細胞癌にも、近年免疫チェックポイント阻害薬が適応となり、過去には一度切除不能と判断されたこれらの癌種が切除可能となることは稀でしたが、免疫チェックポイント阻害薬を併用することによって切除可能となる患者さんも出てきています。当院では早くからこの方針を取り入れ、良好な成績を得ています。さらに肝細胞癌において

は、消化器肝臓内科、放射線科と共同で肝動脈化学塞栓療法、ラジオ波焼灼療法、放射線療法も併用し、あらゆる手を尽くして肝細胞癌の患者さんの予後を少しでも改善させる取り組みを行っています。

○臓器移植

また、当科は腎移植、膵腎移植、肝移植の認定施設でもあります。臓器移植には年齢制限を設けていますが、腎不全患者さん、既存の薬剤でコントロール困難なⅠ型糖尿病の患者さん、進行肝硬変患者さんはお気軽に臓器移植センターまでご相談ください。



手術シエマ

2024年 疾患別手術症例数

術式	症例数
肝部分切除・外側区域切除術	45
(うち Robot 支援下)	(12)
(うち腹腔鏡下)	(16)
肝系統的亜区域切除術	8
(うち腹腔鏡下)	0
肝一区域切除	13
(うち腹腔鏡下)	(1)
肝二区域(以上)切除	16
(うち腹腔鏡下)	(4)
肝門部悪性腫瘍手術	9
膵全摘	5
膵頭十二指腸切除術	54
(うち Robot 支援下)	(17)
膵体尾部切除術	35
(うち Robot 支援下)	(14)
(うち腹腔鏡下)	(6)
膵移植	3
腎移植	9
(うち生体腎移植)	(2)
(うち脳死腎移植)	(7)
腹腔鏡下胆摘	45
その他	52
総計	292
(うち肝胆膵外科高難度手術)	(149)



Robot 支援膵切除の様子

整形外科

教授 乾 洋

埼玉医科大学総合医療センター「整形外科」を紹介させていただきます。

<はじめに>

「整形外科」とは体の動きに関連する部位（「運動器」といいます）の治療を担当する診療科です。いわゆる「美容整形外科」とは異なりますのでご注意ください。

診療対象となる年齢層は子供から高齢者まで幅広く、疾患も転倒や交通事故等での骨折・打撲から、肩・膝などの関節痛、腰痛、坐骨神経痛などの脊椎疾患など非常に多岐にわたります。

治療としては保存（＝手術をしない）治療と手術治療があります。基本的には誰も手術など望まないのが保存（＝手術をしない）治療の可能性を考えます。適切な診断をつけ、適宜投薬治療などを行うとともに、川越駅前の「埼玉医科大学かわごえクリニック」でリハビリテーションを重点的に行うこともできます。また自費診療とは異なりますが、かわごえクリニックでは必要に応じて細胞

治療（いわゆる再生治療）を受けることもできます。

保存治療で効果がなければ、手術治療が必要になります。当院は大学病院という性質上、保存治療を行ったけれど効果が乏しく、手術目的に受診される方が非常に多いです。当院で行われている主な手術は後半部分でご紹介いたします。

<当科の特徴>

現在、整形外科には23名の医師が所属しております。当科では「膝・スポーツ」「人工関節（股・膝）」「肩・肘関節」「脊椎」「足関節」の5つのチームに分かれ、大学病院ならではの専門性の高い手術を行っております。また骨折等の外傷に関しては、救命救急センターと、手外科疾患や整形関連腫瘍等に関しては関係病院や埼玉医科大学国際医療センターと連携し診療に当たっております。

2024年度の手術件数は次のとおりで、いずれも県内有数の手術件数となっております。



2024 年度 手術件数	
手術総件数	865 件
～主な疾患別手術件数～	
人工関節	
人工膝関節置換術	160 件
人工股関節置換術	132 件
人工肩関節置換術	38 件
関節鏡手術・骨切り手術	
膝靭帯再建手術	68 件
膝半月切除、縫合術など	94 件
膝関節高位脛骨骨切り術	24 件
肩関節鏡手術	115 件
脊椎関連手術	
頸椎手術・腰椎手術など	102 件
足外科手術	
足関節鏡手術、骨切り手術など	49 件

当科の手術では現在ロボットやナビゲーションなどの「コンピューター支援手術」を積極的に取り入れており、精度が高く、かつ安全に手術を行うことができるようになってきました。特に当院で行うロボット人工関節手術は世界的にも評価されており、最近是国内だけでなく海外の医師も手術見学に訪れてくれます。

非常に光栄なことですが、近年当科での手術希望の患者さんがかなり増加しております。ただ、そのために手術までの待期期間がやや長くなってきており、患者さんには大変ご迷惑をおかけしておりますことをこの場をお借りしてお詫びいたします。現在待期期間短縮のため鋭意努力中でありますので、是非整形外科を受診ください。



特定看護師 始動します！

ER 外来 山村 華萼

○看護師特定行為とは

看護師特定行為とは、看護師の専門性を発揮し、少子高齢社会における医療需要の高まりに対応するために2015年に創設された制度です。看護師による特定行為は、診療の補助であり、医師による包括的な指示（手順書）のもと処置や医療機器の設定の変更、薬剤の調整などを行います。看護師が特定行為を行うためには、必要な思考力や判断力、高度かつ専門的な知識や技術を身に付けるため、研修を受けることが必要です。患者さんの疾患や病態の変化、背景等を包括的にアセスメントする能力や判断力を養い看護として提供できるようになります。特定行為は、医師が行う治療すべてを代行するわけではなく、厚生労働省が定めた38行為の処置や調整となります。また、特定看護師が処置や調整を行う事ができるのは、すべての患者さんが対象となるのではなく、手順書に記載されている状態の範囲内にあることが条件とされています。

○当院の「特定看護師」

当院では、さらに知識や技術を確かなものとするために、研修終了後は医師から直接指導が受けられるトレーニング期間を設けています。特定行為のトレーニング指導を担当する医師は、研修医の指導も担当する臨床経験豊富な医師です。埼玉医科大学の3つの病院では、研修とトレーニングを修了した看護師を『特定看護師』と呼んでいます。

特定行為を行うためには、医師が患者さんに特定看護師がどのような処置を行うのかを説明し同意を得ます。その後、特定看護師が手順書に従って適切な処置や調整を行います。

○これまでと今後

これまで、処置や調整が必要となった時に看護師が医師を呼び出さなければいけませんでした。医師は、外来診療を中断して病棟へ出向いたり、

手術中に電話で指示をだすこともありました。これからは、特定看護師が患者さんの状態を診察し、手順書の範囲で対応できる状態であると判断した時、速やかに処置や調整をすることができるようになります。特定行為を実施したら、患者さんの経過を必ず医師に報告します。医師は業務を中断することなく、治療に集中することができます。

○膀胱ろうカテーテルの交換（特定行為）

現在は、外来や病棟、集中治療室、手術室などあらゆる部門に特定看護師が配置されています。筆者は、ER外来に所属しながら、泌尿器科外来で膀胱ろうカテーテルの交換を担当しています。膀胱ろうカテーテルの交換は、神経因性膀胱による排尿障害や外傷、がんなどにより尿道カテーテルが挿入できない患者さんが対象となります。膀胱ろうは、腹壁から直接膀胱にカテーテルを挿入し、管を通じて尿を排出させる方法です。膀胱ろうカテーテルは、定期的な交換が必要であり、3～4週間ごとに受診する必要があります。また、尿路感染や誤って抜去してしまった場合には緊急での受診が必要となることもあります。筆者は、泌尿器科の医師に指導を受け、カテーテル交換の技術を学びました。患者さんたちの様々な治療経過、現在の膀胱ろうの状態を把握し、交換当日には体調や尿の性状を確認しながら交換をしています。体調不良や尿の性状に異常があると判断した場合は、特定行為によるカテーテルの交換は行わず、医師に報告し診察の依頼をします。

当院の外来は、多い日は2000名を超える患者さんが受診しています。これまでは医師が診察の合間に膀胱ろうカテーテルの交換や処置をしていました。これからは、特定看護師が膀胱ろうカテーテルの交換を行うことで、医師は診察を中断することなく集中でき、少しでも待ち時間短縮につながるのではないかと期待しています。

○最後に

当院の特定看護師の活動は、始まったばかりですが、病棟から外来・在宅への継続看護の場において特定看護師のつながりや活躍の範囲は広がっていきます。特定看護師は、患者さんの役に立てようこれからも新しい知識や技術を学び続けてまいります。もし、医師から特定行為について問われる事がありましたら、担当する特定看護師にどんな処置ができるのかお聞きください。患者さんの役に立ちたいという熱い気持ちが伝わると思います。特定看護師の活動にご理解ご協力をお願いいたします。



技術演習の様子



特定看護師バッジ授与式

当院は地域がん診療連携拠点病院です

がん診療支援室 藤野 優子

○地域がん診療連携拠点病院とは

全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、全国にがん診療連携拠点病院を463箇所（都道府県がん診療連携拠点病院51箇所、地域がん診療連携拠点病院348箇所（うち、12箇所が（特例型））、特定領域がん診療連携拠点病院1箇所、地域がん診療病院59箇所）を厚生労働省が指定（令和7年4月1日現在）しています。埼玉県は、都道府県がん診療連携拠点病院を埼玉県立がんセンター、地域がん診療連携拠点病院は当院を含め14施設となっています。

地域がん診療連携拠点病院の指定要件は、診療実績、院内がん登録、患者さん・ご家族へのサポート、一般市民へのサポート、地域医療機関との連携、医療従事者に関する人材育成等々多岐に渡っています。

当院のがんの診療実績について、ロボット支援下手術（表1）、外来化学療法センター抗がん剤治療実績（表2）、放射線治療延べがん患者数（表3）、院内がん登録の推移（表4）を表にお示しましたので、ご参照ください。

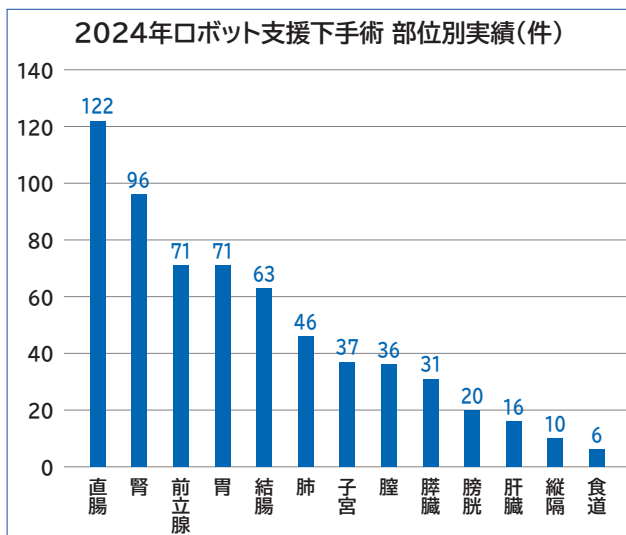


表1

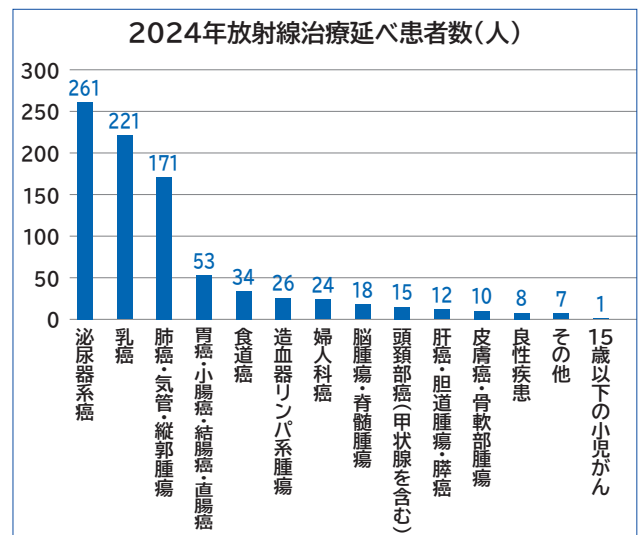


表3

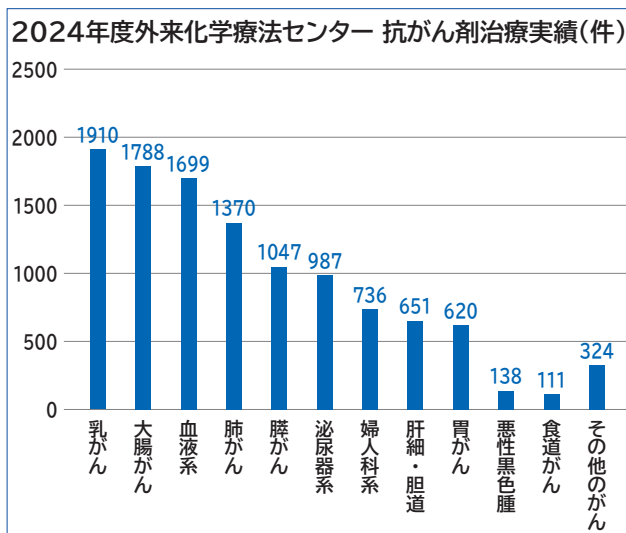


表2

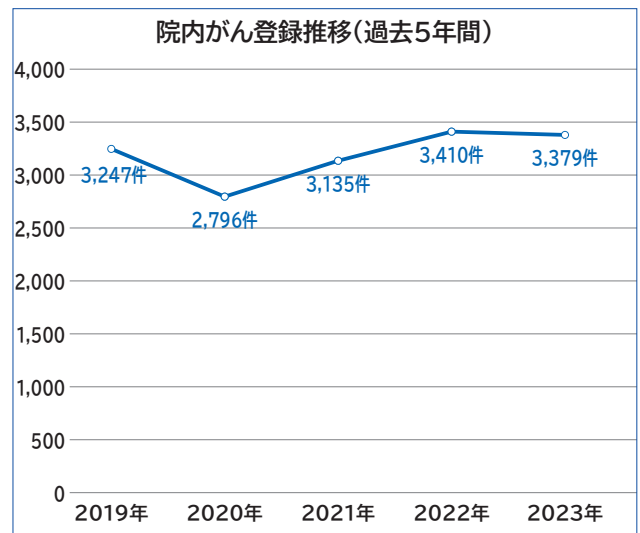


表4

○がん相談支援センターをご利用ください

患者さん・ご家族へのサポートとして、がん相談支援センターが対応しています。がん相談支援センターをご利用いただく方に、満足度調査を実施させて頂いており、「必要な情報を得られた。」「相談して良かった。」「といった高評価を頂いています。一方で、「何が問題がよくわからない。」「がん相談支援センターは敷居が高く相談するのに勇気がいる。」ということを伺うことがあります。がんに関係され身体・精神・社会的立場等あらゆる立場において、問題や不安等がでて、ご家族や友人等に相談できることと、できないことがあるかと思えます。こういった場合には、ぜひがん相談支援センターをご利用ください。医療福祉相談員または、看護師が対応させていただきますので、私どもと一緒に考えてみませんか。相談の費用はかかりません。なお、必要時、院内の医療者と連携を図りサポートをさせて頂くことがあります。ご利用方法はがん相談支援センターにおいていただくか、お電話をください。相談受付時間は月から土曜日の8時30分から17時まで、電話番号は049-228-3871（直通）です。場所は、正面玄関を入り総合案内前を左折後、少し進み突き当たりを右折、しばらく進みますと血液浄化センターの看板が見えてきますので、その左手前の患者支援室内にがん相談支援センターがあります。お気軽にお越しください。

○患者会を開催しています

患者さんやご家族がひとりで悩まないように、話をしたり、がんの情報交換ができる、がん患者家族の会と、乳がん婦人科がん患者会（ヨガ教室）をそれぞれ毎月1回開催しています。専門職によるミニ講演と、みなさんで気軽に体験談や悩みごとのおしゃべりをしています。今年度は、ハイブリッド形式（集合型とオンラインの同時開催）で開催しております。病院にお越し頂ける方とお越し頂くことが厳しい方はオンラインでご参加頂き双方を中継し、お話をさせて頂いており、参加の皆さんから、とても好評となっています。詳細は図1、2をご参照ください。

2025年度がん患者・家族の会ミニレクチャー年間予定

開催日	開催内容（担当者職種）
4月9日(水)	がんになったら知りたい制度（社会福祉士）
5月10日(土)	がん患者さんの日常生活を支えるリハビリテーション（理学療法士）
6月4日(水)	腫瘍マーカーの見方（臨床検査技師） 知っておきたい放射線治療のこと（がん放射線治療看護認定看護師）
7月5日(土)	AYA(15歳～39歳)世代患者会 がん体験者のおはなし
8月	お休み
9月3日(水)	がんと診断されて準備することACP(人生会議)・仕事等（緩和ケア認定看護師）
10月4日(土)	がんと栄養～心と体に栄養を～（管理栄養士） がんと口腔ケアについて（歯科衛生士）
11月5日(水)	お家に帰るときの準備と在宅医療（訪問看護）
12月6日(土)	抗がん剤使用による副作用からくる脱毛、皮膚障害などの外見的特徴について（外来化学療法センター看護師）
1月14日(水)	抗がん剤と医療用麻薬（薬剤師）
2月7日(土)	ヨガ教室（ヨガインストラクター）
3月	お休み

★同日同時刻に、対面並びにオンラインどちらでも参加可能です。
開催時間：午後2時～3時30分
対面参加の方は、午後1時50分までに、3階患者図書室（かしの木文庫・談話室）にお集りください。
講義後、患者さんやご家族同士、日常生活で気になることや治療中の心の不安など自由にお話しいただければと思います。
★原則、事前の申し込みが必要です。以下のE-mailアドレスまたは、QRコードから「患者会申込」として、①氏名②当日のメールアドレス③【対面参加】または【オンライン参加】を記載しお申し込み下さい。申し込み後、3日以内に返信メールをします。返信がない場合はお電話で直通番号にご連絡をお願いします。
E-mail: cms2@saitama-med.ac.jp
TEL: 049-228-3455（がん診療支援室）
★予定のため、変更となることがあります。

埼玉医科大学総合医療センター がん相談支援センター
TEL: 049-228-3871
がん診療支援室
TEL: 049-228-3455

図1

がんとうき合うあなたに
こころからだを
ほくすヨガ。

治療と上手につきあうために
**乳がん婦人科がん
ヨガクラス**
対面・オンライン

●乳がん婦人科がん患者会●
開催日
毎月 第4土曜日
14:00～16:00
ヨガ約1時間の後 交流会(参加は任意)

がんの治療中も、そのあとも。毎日ながるあなたの、こころからだをほくすヨガクラスです。呼吸を感じながら心地よい範囲で体を動かします。体がかたくても、動かしにくくても、運動経験がなくとも大丈夫です。

みんながん経験者

参加者はもちろん、インストラクターもがん経験者です。医療者も同席するので安心。

対面とオンライン同時配信

病院内対面クラスをオンラインで同時配信します。体調と都合に合わせてご参加ください。

情報共有やおしゃべりも

ヨガの後、交流会を行います（参加は任意）。生活の知恵や情報も共有しましょう。

対象：がん経験者の女性 ※主治医にヨガクラス参加許可をもらってください
会場：対面：院内会議室等 オンライン：ZOOM ※クラス数日間に詳細をご案内します
持ち物：ストレッチのしやすい動きやすい服装、飲み物、フェイスタオルが手ぬぐい

参加費 無料

申し込み・問い合わせ 埼玉医科大学総合医療センター・がん診療支援室
申し込み方法：メール・QRコード（メール送信ができます）・電話のいずれかでお名前、連絡先、参加方法（対面・オンライン）、希望日をお知らせください
cms2@saitama-med.ac.jp 049-228-3455（直通）
お申し込み後、3日以内に返信します。返信がない場合は電話でご連絡ください。月曜～金曜 9:00～16:00

図2

○一般市民の方へ向けた市民公開講座の開催

一般市民へのサポートの中で、がんに関する情報提供目的で、毎年1回、市民公開講座を開催しています。昨年度は、令和7年3月22日(土)、ウェスタ川越2階活動室1・2において、当院ゲノム診療科准教授母里淑子先生による、「埼玉医科大学総合医療センターにおけるがんゲノム医療」の基調講演、国立がん研究センター がんゲノム情報管理センター(C-CAT)センター長、研究所ゲノム生物学研究分野分野長である河野隆志先生による「がん遺伝子パネル検査のこれまでとこれから、データの利用法」の特別講演を開催致しました。今年度もトピックスを交えた市民公開講座を開催致します。詳細が決まり次第、院内掲示、ホームページ掲載、川越市報、新聞広告等でご案内をさせていただきます。

○最後に

以上、簡単にご説明をさせていただきましたが、当

院は、川越比企医療圏にあり、埼玉県内のがん診療拠点病院の中では、最大規模を誇る急性期総合病院です。がんの患者さんに対して、地域から信頼される、安全で質の高い医療を提供するよう心がけています。また、急性期総合病院の立場から、様々な併存症のあるがん患者さんにも対応でき、かつ緊急を要するがん患者さんに対しても早急に受け入れる体制が整っております。



市民公開講座



乳がん・婦人科がん患者会 ヨガ教室

はるかぜ

緩和医療科 吉田 輝々・儀賀 理暁

—もう、すっかり はるです。

5月20日(火)、昼下がりの3階東病棟にて、この一文で締めくくられる『ふきのとう(くどうなおこ・作)』を、入院中のお子さん、付き添いのお母さん、お父さん、そしてスタッフのみなで朗読しました。

この企画は、株式会社こよみによる技術支援のもと、フジテレビアナウンス室とCSR・SDGsプロジェクトチームが制作した『デジタル紙芝居』を活用したものです。緩和医療科の医師と大学院生による朗読に続いて、フジテレビの奥寺健アナウンサーと山中章子アナウンサーが、最初はリモートで画面越しに参加、その後プレイルームにサプライズ登場してくれました。プロのアナウンサーによる朗読は格別で、みんなすっかり聞き惚れてしまいました。今度は、お子さん、お母さん、お父さんも一緒に朗読することに。せっかくの機会なので、まずはお二人に朗読のコツを伝授していただきます。



「みんなと一緒に絵本、読んでみる？」ときくと、「いやだ、いやだ」と言いながらもその場を離れなかった4歳の女の子がいました。みんなが練習している間は、「英語のお歌ならできるよ」とABCの歌を披露してくれたり、最近の“がんばっていること”を話してくれたり。「テープを貼ってあるから、ここ、かゆい、かゆいな。でも、掻いたらだめって“アンパンマン先生”に言われたから、ちゃんとがまん

しているの。」と…。また、隣に座っていたお友達が検査で離席する姿を見て、「〇〇は昨日もう終わったから、今日はしなくていいの。また明日やる。」と教えてくれました。「〇〇ちゃん、毎日いっぱいがんばっているのね」と言うと、大きく頷いて、にっこり。そして、しばらくすると、みんなが楽しそうに朗読の練習をしているのを見て、「ふうってするのできる、〇〇もやる」と、登場人物の「はるかぜ」の役をやってくれることになりました。「ふうっ」というのは、台詞ではなく、ト書きです。奥寺さんと山中さんの朗読をきいて、すっかりお気に入りになったのでしょうか。何度も何度も、「ふうっ」と練習しました。

いよいよ本番です。「これ小学生のとき教科書で読みました、懐かしい〜。」と喜んでくれた二人のお姉さん、いつもは絵本の読み聞かせでちょっと困っているお母さんとお父さん、小さなお子さんを胸に抱いた小児科の先生や病棟スタッフ。プロに教えてもらったコツを思い出しながら、一言ひとことを大切にみんなで一緒に朗読しました。もちろん、「ふうっ」も大成功。

そしてフィナーレ。奥寺さんと山中さんの教える忠実に守り、しっかり間をとりながら朗読するお姉さんのやさしい声が、プレイルームにちょっと季節外れの春風を連れて来てくれました。

「もう、すっかり はるです。」



～オンライン資格確認システムについてのご案内～

医務課

当院では、マイナンバーカード等を利用した「オンライン資格確認システム」の運用を開始しております。マイナンバーカードをお持ちの方は、窓口で保険証をご提示いただくなくても、窓口設置のカードリーダーを利用することで保険の資格確認が行えるようになります。

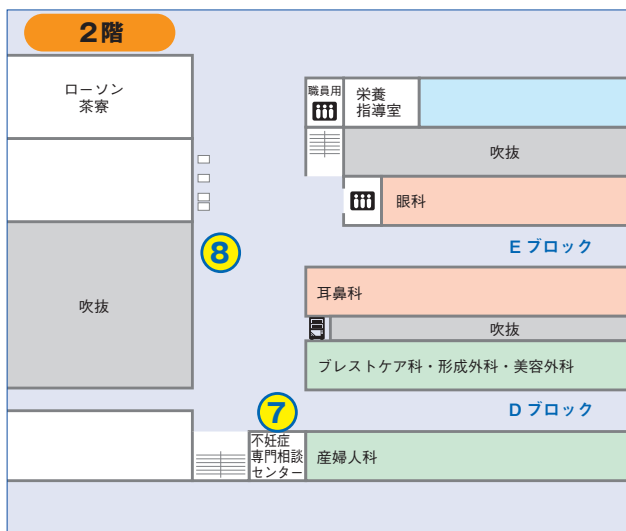
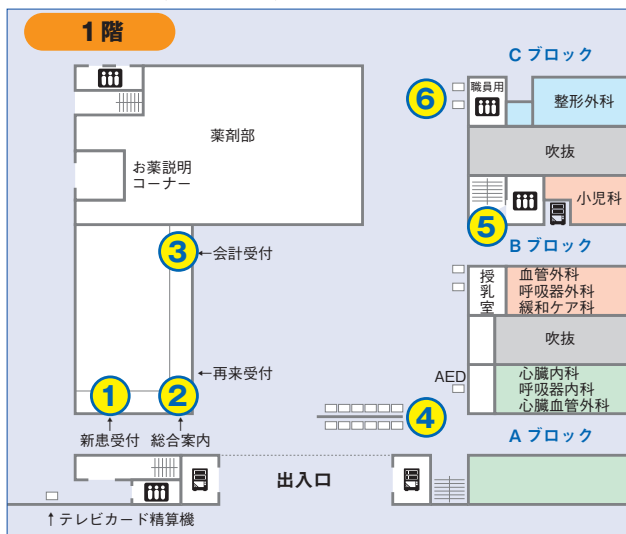
詳しくは、院内設置のリーフレットをご覧ください。総合案内窓口・入退院センター窓口までお問い合わせください。

なお、3月7日よりカードリーダーを4台から10台へ増設しました。下記に設置されているのでご利用ください。

- | | | |
|---|-------|----------------|
| ① | 本館 1F | ①新患受付 |
| ② | 本館 1F | ②再来受付 |
| ③ | 本館 1F | ⑥会計受付 |
| ④ | 本館 1F | 自動再来受付機 脇 |
| ⑤ | 本館 1F | Bブロックエレベーター 付近 |
| ⑥ | 本館 1F | Cブロック自動再来受付機 脇 |
| ⑦ | 本館 2F | Dブロック産婦人科外来付近 |
| ⑧ | 本館 2F | 自動再来受付機 脇 |

※システムメンテナンス等で、ご利用できない時間帯もありますので、予めご了承ください。

外来（1階・2階）カードリーダー設置場所

ぜひ、一度使ってみませんか？
マイナンバーカードの保険証利用

マイナンバーカードの保険証利用には
さまざまなメリットがあります！



Point!

薬剤情報等の提供に同意をすると、
データに基づく適切な医療が受けられる！
さらに…健康保険証で受診した場合と比べて、
初診時等の窓口負担が低くなる！

Point!

限度額適用認定証等がなくても、
**手続きなしで高額療養費の限度額を超える
支払いが免除！**

詳しくは厚生労働省Webサイトでご確認いただけます。

詳しくは **マイナンバーカード 保険証利用**



RT JOURNAL (急性期脳梗塞の診断と治療について)

中央放射線部



RT JOURNAL

放射線

2025

vol.34

急性期脳梗塞の診断と治療 その3 実際の治療について

発症から間もない脳梗塞（急性期脳梗塞）では、詰まった血管を開通させ血流を改善する血管内治療が行われます。

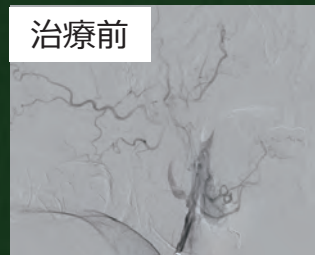
急性期脳梗塞の血管内治療とは、カテーテルと呼ばれる細い管を血管内に入れ器具を脳の病変部まで運び、梗塞の原因となる血栓を取り除く治療法です。血栓を掃除機のように吸引したり、ステントと呼ばれる金属の網で絡め取ることで血流を再開させます。このとき X線を使用する装置を使って体内の血管を確認しながら治療を行っていきます。

吸引型

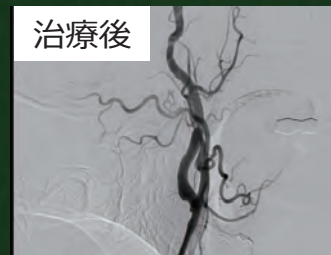


血栓を掃除機のように
吸い取って回収

治療前



治療後



血管内治療により血栓で詰まっていた血管の血流が改善

ステント型



ステント(金属の網)に
血栓をからめて回収

編集後記

急性期脳梗塞は1分1秒でも早く治療を開始して、脳の血流を改善させることが重要です。当院では患者さんが出来る限り早く治療を受けられるよう、スタッフ同士が連携して検査から治療をスムーズに行える体制を確立しています。

よくあるご質問

Q. 急性期脳梗塞の血管内治療の良いところは？

A. 外科的手技に比べて傷が小さく回復も早い『低侵襲治療』であることや、治療にかかる時間が短いため、患者さんの体への負担が少ないというメリットがあります。

主に太い血管に詰まった血栓が適応で、今までなら手足の麻痺が残っていた症例であっても、後遺症が少なく歩いて帰れるケースも増えてきています。

しかし、病変や患者さんの状態によっては血管内治療が適応とならないこともあります。また、血管内治療には高度な知識・技術が求められるため、全ての病院で行えるわけではありません。



外来受診について

初めての方

- * 診療日 月曜～土曜
(日曜・祝日・年末年始を除く)
- * 診療受付時間 8:30 ～ 11:00
- * 診療時間 9:00 ～ 17:00

再来の方

- * 診療日 月曜～土曜
(日曜・祝日・年末年始を除く)
 - * 診療受付時間 8:30 ～ 11:00
(予約の方を除く)
- 予約以外の11時以降の受付はありません。

初めての方、再来の方も午後まで診療を行っておりますが11時以降の受付はできません。(再来で予約のある方を除く)また、診療科や曜日によって受付できない場合もあります。

面会者へのお願い

咳・熱などの症状のある方やお子様の面会をご遠慮ください。

面会については病棟にご確認ください。

アクセス

電車

- | | |
|-------------------------|--------|
| 池袋より東武東上線・東京メトロ有楽町線 30分 | 川越駅下車 |
| 西武新宿駅より西武新宿線 60分 | 本川越駅下車 |
| 大宮駅よりJR埼京線 20分 | 川越駅下車 |
| 大宮駅よりJR高崎線 9分 | 上尾駅下車 |
- ※下車後、バスまたはタクシーでおいでください。

バス

- 川越駅東口より東武バス
(上尾駅西口・平方・埼玉医大・川越運動公園行き)
(25分) 埼玉医大総合医療センター下車
JR高崎線上尾駅西口より東武バス(川越駅行き)
(20分) 埼玉医大総合医療センター下車
市内循環バス「川越シャトル」40系統42系統43系統

車

関越自動車道川越インターより8km、約15分
県道51号線(川越上尾線)沿い

* 医務課からのお願い *

当院では受診の際、月に1回保険資格確認をさせていただきます。マイナンバーカードをカードリーダーに通していただくか、資格確認書を窓口へご提示ください。院外処方箋発行の際に、正しい保険情報を転記するためにも、診察前の保険確認にご協力ください。また、緊急時に当院よりご連絡させていただく際、お届けいただいている連絡先が変更となっていることがあります。連絡先に変更があった場合には、お申し出ください。



デジタル紙芝居朗読講座

編集後記

今回の表紙は、フジテレビアナウンサーのお二人が来院された時の写真です。入院中のお子さん、お父さん、お母さん、スタッフみんなで一緒に朗読を行いました。13ページにて紹介していますので、ご覧ください。



暑い日が続いています。こまめに水分を補給し、こまめな休息をとるなど熱中症対策をして、これから来る本格的な夏を乗り切りましょう。

編集員

埼玉医科大学総合医療センターニュース 第71号

- | | |
|-------|---------------------|
| 発行年月日 | 令和7年6月末日 |
| 発行 | 埼玉医科大学総合医療センター |
| 発行責任者 | 病院長 別宮 好文 |
| 連絡先 | 医療センターニュース編集局(医務課内) |
| 印刷 | 株式会社 ヨーコー |